


平成 29 年 9 月 発行
 編集・発行
 開成町農業委員会
 (0465) -84-0317
 広報委員
 松下 彰 (宮台)
 加藤誠一 (金井島)
 小野博文 (中家村)

かいせい No.16

農業委員会だより



農地パトロールを実施しました

8月22日に農業委員会で町内全域を対象に「農地パトロール」を実施しました。

固定資産税が増えることも・・・

農地パトロールとは、農地法に規定されている農地利用状況調査であり、開成町では平成22年度から毎年夏に町内全域の農地を対象としたパトロールをします。農地パトロールで適正に管理がなされていないとされた農地については、是正を促し、場合によっては指導・勧告を行います。農業振興地域については、是正がなされない場合には、固定資産税の評価額が1・8倍となってしまいます。

耕作放棄地削減中！

開成町農業委員会では昨年度の農地パトロール以降、自作による営農再開、中間管理事業や利用権設定による農地流動

化を積極的に促しており、耕作放棄地を大幅に縮減させています。

主な成果としては、長年耕作放棄地であった金井島の高台の農地の半分を再生させ、現在若手農家が借り受け畑作を始めています。岡野(飛び地)では、ここ数年耕作していなかった田んぼを営農法人が借り受け、田んぼと畑として利用しています。



所有者の責務です

是正を促している中で、所有者の方から「農業をするつもりはないが、権利だから相続した。適正な管理などできない。」「年1・2回草刈りをしている。それでも足りないのか。」というお言葉をいただくことがあります。どのような経緯であれ農地を所有したのであれば、適正に管理するのが所有者の責務です。雑草の生育はその年の陽気に左右されるので、何回草を刈れば良いというものではなく、繁茂の程度を見ながら周りに迷惑にならないよう早めに対処することが必要です。ご自身やご家族が耕作をできないのであれば、「利用権設定」をすることで農地を貸し出すこともできます。

開成町農業委員会では、これからも農地の適正管理を促進し、耕作放棄地のない農業環境づくりに努めてまいります。

農業者年金

農業者年金は、農業者に大きなメリットのある年金制度で、次の3点の全てを満たしていれば加入できます。

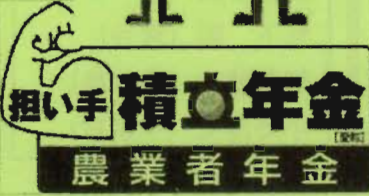
- ① 国民年金第1号被保険者
- ② 60歳未満
- ③ 年間60日以上農業に従事

農地を所有していなくても、農業経営者ではない方でも加入要件を満たしていれば加入できます。

保険料は月2万円から6万7千円の間で設定できます。

積立式の年金ですので経営状況に合わせて保険料を見直すことができます。

また、要件を満たしている担い手には国から保険料の補助があります。さらに支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象になります。



米栽培体験学習塾

開成町周辺は、かつて酒匂川が暴れ川であったため、洪水の被害が多くその半面肥沃な土地が形成されました。江戸時代には小田原藩の酒米を一手に引き受けていたほどの米どころとなりました。

町のおいしい米のPRと農業への理解を深めるため、農業委員会ではJA開成支店女性部の皆さんやボランティアの助力を得て、小学生とその親を対象に米栽培体験学習塾を毎年開催しています。



今年も、開成町内のほか横浜市や川崎市、真鶴町、静岡県沼津市などから多くの親子連れが参加しています。会場の金井島にある学習田では、5月28日に86

人の参加者が手植えで田植えをし、今ではたわわに実った稲穂がこごべを垂れています。10月1日には参加者が鎌で稲を手刈りします。収穫された米は精米され、後日参加者に贈呈されます。

待望のブランド米

昨年の米の食味ランキングで、神奈川県では初めてとなる特A評価を「はるみ」が獲得をして1年、作付面積は一気に3倍近くに増えています。

消費現場では、需要に供給が追い付いていない状況で、これまでの主力品種であるキヌヒカリからの転換が加速的に進んでいます。

コンビニや外食産業などが良質な米や野菜を求めて生産者からの直接的な買取ルートを構築するなど流通の形態が大きく変わりつつあり、それに伴い農家の意識も「作る」から「作って売る」に転換し始めています。

「はるみ」のつやが良く、冷めてもおいしいという特徴は、消費現場のニーズを満たすものですので、売ることを意識した生産が進めば、他県産ブランド米と互角に戦える品種に成長するものと期待しています。

開成弥一芋初出荷

9月28日、JANAかながわ西湘開成事業所で開成弥一芋の初出荷式が開催され、今年も開成町特産の弥一芋が各地で販売されます。平成22年度に復活し、7年を経た今年、県の「かながわブランド」にも登録されました。テレビなどで取り上げられることも多く、年を追うごとに小売店からの引き合いが増えています。



農業委員会で弥一芋の定植を視察（今年4月25日）